



ひらどだい

令和3年度 学校だより 12月号 横浜市立平戸台小学校 校長 藤巻 孝之

12月

車内にて

校長 藤巻 孝之

数十分間のバス車内。子どもたちで大変な混雑となってしまうにもかかわらず、同乗していた一般のお客様とのふれあいが子どもたちの心を豊かにはぐくんでいきます。

緊急事態宣言が解除となり、感染予防対策は継続しつつも充実した教育活動の展開が可能となってきました。学級を半分に分けた少人数で、台小サポーターズのご協力をいただきながら実施することができた家庭科調理実習。茹でたり、炒めたりして実際に野菜を味わう学習に、子どもたちの顔もほころびます。横浜市が取組を推進する、プロのアーティストを講師に迎えて行われる「芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム」。今年は3年生を対象にフラメンコのリズムと動きを体験するプログラムでした。音楽室の床が抜けてしまいそうなくらいに熱中する子どもたちの姿に、講師も圧倒されていました。いずれも昨年度は実施できなかった学習です。そして、子どもたちが待ちに待った校外学習、宿泊体験学習、修学旅行。改めて本物に触れる、実際に体験をする、その醍醐味や価値を実感することができました。そのような中で今回クローズアップしたいのが「路線バス利用」です。

他校では路線バスの利用を避ける傾向があります。多くの子どもたちが乗車することで通常よりも車内は密状態になりますし、何より私語等のマナーにかかわるトラブルを懸念するからです。しかし、本校では10月から11月にかけて、全学年が路線バスを利用した校外学習を実施しました。学年、学級を2～3グループに分け、時間をずらして分乗します。それでも朝の時間帯、車内は大変な混雑となります。友だちと寄り添いながらの小旅行。発車時や停車時、カーブなどで揺れる車内。ナップザックにはお弁当。子どもたちの気分は当然盛り上がります。ところが…。

いつものハツラツとした声はどこへやら。車内はしんと静まり返っているのです。時折聞こえてくるのは声のボリュームを考えた小さな話し声。一般のお客様の「どこの小学校？」「何年生？」「どこまで行くの？」などの問いかけとそれに答える子どもたちの声。「どうぞ。」と席を譲る子どもたちの声。時には降車する方のために自らもバスを降りて通路を開ける高学年の姿も見られました。混雑した車内では、子どもたちと一般のお客様がお互いを思いやり、気持ちよく過ごすことができる空気がつくり上げられていったのです。そして一人の女性が言いました。「あら、ここでみんな降りるの？なんだか寂しいなあ。」

本物体験を重視した教育活動の推進を掲げている平戸台小学校です。本物に出会うために乗り込んだ路線バスの車内にも貴重な学び、素敵な出会い、心はぐくむ思いやりがありました。この原稿を書いている最中、職員室の電話が鳴りました。驚いたことに、子どもたちの車内マナーを褒めてくださる市民の方からのお電話でした。なんとという偶然。喜びもひとしおです。お電話をくださった方、本当にありがとうございました。

2021年も残すところ一か月となりました。今年一年を振り返り、多くの方々のご支援をいただきながら、できたことへの感謝と手ごたえを確かめつつ、2022年もひらりん cha-cha-cha でひと、もの、こと、そして本物との素敵な出あいを生み出していこうと思います。